

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971200231
法人名	医療法人 聖仁会
事業所名	グループホームうらら
所在地	〒 403-0015 山梨県富士吉田市ときわ台1-1-26 電話番号 0555-30-1216

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成19年10月26日

【情報提供票より】 平成19年9月10日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤	4人 非常勤 7人 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 0 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	350 円	昼食	540 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1440 円			

(4) 利用者の概要 平成19年9月10日 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	85 歳	最高	105 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富士吉田市立病院 すみ歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成19年10月10日

市内幹線道路脇の住宅地の二階建ての一階が通所介護サービス、二階部分がグループホームとなっている。歯科診療をとおして遭遇した認知症の人に対して、何らかの支援ができればよいと考えて設立したという。利用者の尊厳を守り、介護の質向上に努力することや笑顔で接することなどを基本理念として取り組んでいる。職員の異動も少なく、創設以来5年以上居住する方もおり、利用者の出入りは年平均2人程度で馴染みの関係がつけられ落ち着いた生活が営まれている。外部評価や自己評価で課題となったことの解決に向けて全職員で話し合うとともに、職員研修などにも計画的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「玄関がわかりにくい」ことに対して職員の駐車場を他に確保し玄関先がよく見えるようにした。又、身体機能低下防止策として毎朝体操を行うことにしたり、緊急時の手当等は24時間対応可能な看護職を職員としたことなどにより改善されているが、残された課題に引き続き取り組んでいく意向が語られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者、ホーム長、計画作成担当者が中心になりとりまとめた。とりまとめた案についてはカンファレンスで提示した。全職員からの意見聴取は、ホーム内に置いた自己評価表に気づいた点を書き込む方法だった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) グループホームケアの紹介、外部評価結果の報告、認知症介護実践研修で学んだ内容の伝達などであった。席上、家族から職員の言葉遣いに対する意見が出されたことから、それをカンファレンスで全職員に伝えて注意を喚起するとともに、心当たりの職員には直接話し、本人が気づくことができるように知らせている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 相談苦情受付箱を事務室前のカウンターに設置しているが、使用されていない。面会に来訪された家族には、利用者の日ごろの様子を話し不安解消に努めている。また、毎月1回の外食時に家族の参加を得て家族会を開いており、家族からの意見を聞く機会としている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元自治会に加入しており、盆踊りなどの行事にも参加している。買い物も地元で行うように心がけており、地域の方に災害時の協力を依頼している。地域で当たり前の生活をするために、ゴミ集積所の掃除など地域の一員としてできることはやっというと考えている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームうらら

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を守り、サービスの質の向上に努め、笑顔で接することを基本理念としている。地域の中で暮らし続けることの支援については特に明記されていない。	○	地域の中でその人らしく暮らす視点を基本理念に加えて、日々の実践に結びつけてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念について居間の壁面に掲示するとともに、カンファレンスの折等にも管理者と職員が繰り返し確認し合っている。	○	地域の中でその人らしく暮らす視点を加えた基本理念を共有して、ホームでの生活支援に一層の努力をされるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会に加入し、盆踊り大会に参加したり文化祭への出品も準備している。買い物も近くのお店でするように心がけている。又、高校生のボランティアや支援学校児童の慰問なども受け入れている。	○	地元の行事や地域の様々な活動に参加することを通じてグループホームへの理解を深め協力が得られるように、さらに努めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、ホーム長、計画作成担当者が中心となって自己評価のとりまとめを行っている。一般職員には自己評価表を提示して気づいた点を記入するように促している。また、外部評価結果はカンファレンスで共有し改善策を話し合い改善に取り組んでいる。	○	全職員の意見を出し合って自己評価する機会を持つことが職員自身の意識啓発につながる教育的な場になると思われるので、現在考えているような全職員の意見交換による取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、行政担当者、自治会長の参加を得て隔月の定例日に開催しており、ホームにおけるケアの様子を紹介するとともに外部評価結果等の報告、家族から出された意見などについて話し合われた。家族からの率直な意見はカンファレンスで職員に伝えている。	○	運営推進会議を外に向けて理解を深める機会とし、また、外部からの意見を広く聞く機会とするためにも、メンバー構成を検討されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	苦情が発生したことに関して対応等について市担当者に相談したが、それ以外は運営推進会議をとおしての連携が主となっている。	○	行政からの支援・協力を得るためにも、グループホームについての情報提供を積極的に行うことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「うらら通信」にホームの活動や行事などを掲載して届けている。また、ほとんどの家族が面会に見えるのでその折に利用者個々の様子を伝えている。	○	面会に来られなかった家族には、利用者の様子をメモして「通信うらら」に添えるなど、家族の安心につながる情報を伝える工夫を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情受付箱を事務室前のカウンターに設置しているが利用されていない。運営推進会議に家族代表として一人参加しており、出された意見についてカンファレンスで改善方法を話し合った。また、毎月1回の食事会に併せて家族会を開き意見を聞く機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を避け、併設事業所との職員の交代は行わないようにしている。新規職員は見守り業務から入り、徐々に利用者慣れるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修マニュアルを作成し研修を行っている。認知症介護実践研修には計画的に毎年1人ずつ参加している。また、全国グループホーム協会主催の県外研修を受講しており、管理者研修も受講中である。非常勤職員の研修はあまり行われていない。	○	非常勤職員の研修についても推進されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会はあまり持たれていない。	○	相互訪問やグループホーム協会の活動等、同業者同士の情報交換により、有益情報を共有し、サービスの質向上の推進に取り組まれるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者を訪問することはあるが、家族のみが来所相談し利用が開始される場合が多い。	○	利用開始前にホームを見学し、職員や他の利用者やホームの雰囲気徐々に馴染むことができるような工夫が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者の言動をとおして、自分の祖父母への接し方を反省した、また、利用者から温かい言葉をかけられて慰められた経験などがあり、学び支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などを参考にして、利用者のやりたいことを推量して支援している。	○	利用者ごとの希望や意向について、日々の表情や行動の観察、家族からの情報などから、把握のしかた、引き出し方などについて工夫されることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たり、家族の要望等も聞いたうえで計画案を作成し、家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回介護計画の見直しを行っており、変化がある時にはその都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者ごとに要望される特別の買い物を支援したり、都合が悪くなった家族に代わって通院を支援するなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望に応じた受診ができるように支援している。また、必要に応じてホームにおける日常の様子などを伝えて適切な診療が得られるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に話し合っている。終末期ケアをホームで行うことになっても、最期は家庭で迎えられようことのホームの方針について、利用者家族の理解を得ており、職員もその方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の取り扱いについては、方針を規定し、職員は、それを守るようにしている。利用者の排泄支援などで配慮を欠く言葉かけがされることがあり、その都度、職員の気づきを促すように対応している。	○	排泄支援におけるプライバシーへの配慮は特に重要であり、指導が徹底されることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて支援したいと考えているが、意向の表出がされない場合が多いために、職員側の判断で支援してしまうことがある。	○	一日をどのように過ごしたいかについて、問いかけたり、体調や表情から察するなど、できる限り一人ひとりの希望に沿って支援する方法を工夫してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食夕食はホームで調理するので利用者も皮むきなどを手伝う。昼食は併設の通所介護事業所の栄養士による献立で調理された食事を摂り栄養面の偏り等がないようにしている。職員は介助に専念し別室で交代に食事している。	○	介助に手がかかる利用者が1/3くらい入居されているが、職員も同じ食事を一緒に食べることができるような工夫を検討してほしい。又、準備や片付けにもできる限り利用者の力を発揮できるような支援を工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、夜間入浴の希望は特にはないが、家庭において夜間に入浴していた人にも、職員体制上の都合で昼間に入浴してもらっている。	○	利用者の希望や状態を考慮しながら、柔軟に対応できるように工夫したいと考えているとのことであり期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味などを参考にして、一人ひとりの力を活かして片付け、洗濯物の整理などをしており、家族が製作した輪投げ用の遊具を使ってゲームをしたり、歌集を繰りながら歌って楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車いすや歩行器の利用者が3~4人おられ、外出できる利用者が固定化している。	○	重度者を含めて全員が、できるだけ毎日、短時間でも外気に当たる機会をつくるように工夫してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通所介護事業所と共用の玄関は日中開放されている。二階にあるホームから階段又はエレベーターで玄関に降りる利用者には見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の避難訓練、及び通所介護事業所と合同の避難訓練、合わせて年2回の避難訓練を行っている。地域住民の協力者一人も依頼しており避難訓練にも参加していただくなど、地域の協力が得られるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量を把握し記録しており、不足と判断された場合は食べやすいものの補食などにより支援している。昼食で500キロカロリーが摂取できるように考えて献立が作成されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室と居間の上に段差がなく移動も楽にできる。木製で落ち着いた感じのテーブルなどの家具類が置かれている。テレビは食事時間帯を避けている、天窓の開閉による光量の調節、10畳の小上がり等くつろげるスペースがある。また、萩やコスモスなど季節の草花が飾られて季節感のある心地のよい空間に工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や色づけした手作りカレンダーが飾られており、家庭で使っていた時計や鏡台などを持ち込み落ち着いて過ごせるような工夫がされている。		